

平成24年5月1日

ヒヤリハット事例の情報提供について

学生の皆様へ

三重大学副学長（危機管理担当）
住 田 安 弘

大学内で修学中の事故や通学途上の事故は後を絶ちません。学生では交通事故、学内での転倒、クラブ・サークル活動中の事故、実験中の外傷などが多く報告されています。特に大学として安全管理上その発生数を減らすことが、大きな課題となっています。

ヒヤリハットとは、「ひやっ」としたげがや疾病に至らなかった場合、または病院を受診する必要のない軽症のけがで済んだ場合を言います。「1件の大事故の背後には29件の軽微な事故と、300件の事故には至らなかったヒヤリハットがある」と言われます（ハインリッヒの法則）。このヒヤリハット事例を集めて分析することにより、大事故を予防することができるとも言われています。

今回、学生の皆様が体験されたヒヤリハット事例を提供頂き、顕在化していない隠された危険性を予想することにより大事故を予防することを目的として、この制度を始めることとしました。

皆様の「ヒヤリハット」事例を収集し、注意喚起を行うことにより、三重大学がさらに安全なキャンパスになることを期待しています。皆様方のご協力をお願いします。

学生の方はこちらのページ <http://www.mie-u.ac.jp/students/pdf/hiyarihokokusyo.xls> から様式をダウンロード願います。